

平成22年度上期 電力需給状況

需要の概要

平成22年度上期の販売電力量は、146億8千6百万kWh時、前年比 107.7%となった。

〔需要の内訳〕

家庭用などの「電灯」は、7月から9月にかけて気温が前年に比べ高く推移し、冷房需要が増加したことなどから、前年比 109.5%となった。

事務所ビル・大型商店などの「業務用電力」は、「電灯」と同様の気温要因などから、前年比 104.4%となった。

産業用の「大口電力」は、生産活動の緩やかな持ち直しを背景に、ほぼ全ての業種で前年を上回ったことから、前年比 110.7%となった。

<参考>

上期の販売電力量としては、平成20年度上期に次ぐ、過去2番目の水準となった。

- 電灯および業務用電力は、記録的な猛暑の影響により、ともに過去最高の水準。
- 大口電力は、リーマンショック前の20年度上期と比べ1割程度低く、過去3番目の水準。

需要実績

(百万kWh時、%)

		電力量	前年比
特定規模需要以外の需要	電灯	4,864	109.5
	電力	1,001	104.3
	計	5,865	108.6
特定規模需要(自由化対象)	業務用電力	3,487	104.4
	産業用電力	5,334	109.1
	うち大口電力	(4,138)	(110.7)
	計	8,821	107.2
販売電力量計		14,686	107.7
融 通		2,530	203.6

注：特定規模需要は、特別高圧電力および高圧電力の合計。

大口電力の主な産業別内訳

(百万kWh時、%)

	電力量	前年比		
		22 / 上	21 / 下	21 / 上
織 維	196	124.3	80.6	63.5
紙・パルプ	764	104.3	92.2	74.3
化 学	620	110.2	102.3	79.1
鉄 鋼	433	119.9	101.6	73.7
機 械	949	113.6	104.4	89.3
そ の 他	1,176	108.1	99.2	93.6
合 計	4,138	110.7	98.6	82.4

供給の概要

- 原子力は、定期検査の影響により、前年比 121.1%となった。
- 水力は、前年の渇水の影響などにより、前年比 166.1%となった。
- 火力は、前年比 100.7%となった。

供給実績

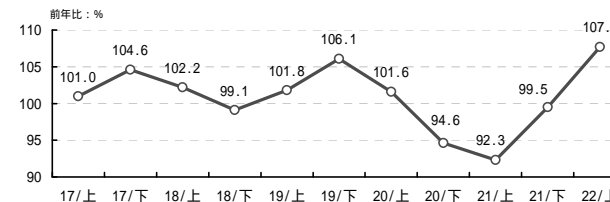
(百万kWh時、%)

	電力量	前年比	備 考
原子力	(41)	7,717	121.1
水 力	(13)	2,388	166.1
火 力	(45)	8,588	100.7
新工ネ	(1)	208	136.2
発受電計	(100)	18,901	114.6
その他		140	
供 給 計		18,761	114.9

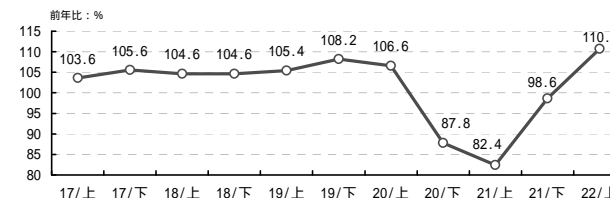
注1. 新工ネにはバイオマス(42百万kWh時)を含む 注2.()内は構成比

注3. 四捨五入の関係で、合計が合わないことがある

(参考1) 販売電力量の前年比の推移



(参考2) 大口電力の前年比の推移



(参考3) 4県都平均気温

	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月
実績	10.1	13.7	18.9	23.4	27.2	29.7	26.4
平年差	0.8	0.9	0.1	0.9	0.7	2.4	2.6
前年差	0.3	1.9	1.0	0.1	0.7	2.1	1.8

(参考4) 各県別の需要状況

(百万kWh時、%)

	徳島	高知	愛媛	香川
販売電力量計	(108.5)	(106.3)	(107.9)	(107.8)
	3,247	2,426	5,110	3,903

注：()内は前年比